

インドの地図

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆

近藤龍弘

〒940-0052

長岡市神田町1丁目4番10

TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・小林善秋・高橋潔
室賀清輝・高橋利春・加瀬由起子
近藤マリ子・近藤真弘・近藤善信

後援・株式会社アサヒ
印刷・(株)北越時報社

ご家族の皆さままでご覧ください

『四苦八苦』

翠巖龍弘

今年の夏は全国的に雨が
多く、蒸し暑い日もありま
したが全般的に冷夏。日光
不足で農作物は不作の様
子。これもエル・ニーニョ
現象(ペルー沖から中部太
平洋赤道域にかけて海面水
温が平年に比べて一〜二度
高くなる現象。世界各地に
高温・低温・多雨・干ばつ
などをもたらす)のためだ
そうです。日本から遠く離
れた地域の現象でも影響を
受けてしまいます。あらた
めて地球の温暖化や公害問
題など、深く考えさせられ
ます。

上の地図は印度です。お
お釋迦様が生まれ(ルンビ
ニーはネパール国)、悟りを
開かれ、説法され、入滅され
た国です。来年二月『インド
仏跡巡礼の旅』を計画いた
しました。大勢の方々の参
加をお待ちしております。
お釋迦様は二千五百有余
年前の四月八日に釋迦国の
太子としてルンビニーの園

で誕生され、二十九歳のと
き太子の地位を捨てて出家
され、三十五歳の十二月八
日、ブタガヤの菩提樹下
で悟りを開かれ「仏陀」とな
られました。(私は十二月八
日を仏教誕生の日と呼ん
で、日本の多くの家庭でこ
の日をお祝いしてください
と呼びかけております)そ
の後、四十五年間釋迦仏の
教え「仏教」を説き、八十歳
の二月十五日にクシナガラ
で涅槃に入られたと伝えら
れております。

四苦八苦と言われますが、
四苦とは(1)生苦：生まれ
る苦しみ (2)老苦：老い
る苦しみ (3)病苦：病氣
になる苦しみ (4)死苦：
死ぬ苦しみです。それに、
(一)愛別離苦：親愛な者と
の別れなければならぬ苦し
しみ (二)怨憎会苦：恨み
憎む者に会わねばならぬ苦
しみ (三)求不得苦：求め
ているものが得られない苦
しみ (四)五取蘊苦：心身

を形成する五つの要素から
生じる苦しみの四苦を加え
て八苦になります。しかし、
生苦は生まれる時の苦しみ
ですが、誰もががおぼえてお
りません。

お釋迦様は人生の老・病・
死の問題に直面して出家さ
れたと伝えられておりま
す。私たちの人生もこの四
苦八苦からは逃れることは
できません。仏陀はベナレ
スの鹿野苑の最初の説法
(初転法輪で「四諦八正道」
の聖なる心理を説かれまし
た。(苦しみとその原因、そ
れらをなくす方法の教え)
私共は自分の計らいでは
どうにもならないことが多
くあります。また、物事にこ
だわって苦しみが生じま
す。思うがならぬことは思
うがままにしようとしな
い。如何なる場合でも自然
に受け止め今を生きること
を心がけることが苦しみを
和らげることになるのでは
ないでしょうか。

【日々精進(七)】

緑陰禅で普段でできない思い出作り

近藤真弘

今年も冷夏といわれた夏が終わり、いよいよ落ち葉の秋が近づいてまいりました。

私の所属しております会に「長生会」という会があります。長岡の方は長生橋でご存知の通り「長生」と書いて「ちょうせい」と読みます。

この会は長岡地区周辺の曹洞宗青年僧侶の集まりで、

私の師僧が青年の頃、四十年程前に仲間の僧侶と立ち上げた会です。

主な活動としては毎年講師の先生をお招きして持ち回りの寺院本堂で夜、朝の二回講演を行う「仏教文化講話」や、一般参加者を募り行う一泊参禅会、長岡駅前でで行う托鉢修行、そして毎

年七月の終わりに行う「緑陰禅(りよくいんぜん)」などがあります。

最後に挙げた「緑陰禅」というのは何かと申しますと、小学生の子供たちに参加を募り、一泊で坐禅体験や、その年によって変わる体験学習などをお寺の本堂で行う子供版参禅会です。これは長生会発足当時から続く活動で、私も子供のころは毎年参加しておりました。

ようです。今年も七月の二十八、二十九日に三十人程の子供達が参加して行われた緑陰禅ですが、私は干渉者として去年に続き二回目の参加でした。

私が子供のときもそうだったのですが、小学生の子供達はほんとに元気が良く、いくら騒いでもまったく疲れた様子がありません。しかし、しっかりとしたもので、自由時間のときはさんざん動き、騒いでいた子供たちも坐禅の時間になるとしっかりと静かに座り、食事の準備や片付けも決められた班ごとにきちんとこなしていました。

子供たちはお互いが仲良くなるのもとても早く、最初は一緒に来た同じ小学校の友達と行動していますが、すぐに他の子供たちとも仲良くなり、そこには大人た

ちの顔色を伺った付き合い方とは違い、純粹なものを感じました。テレビもゲームも無い中、子供たちは普段と違う生活を難なく受け入れ、そこでの楽しみを探し、その場に順応します。一人ではとても怖くて寝れない本堂もまるで修学旅行の夜のように騒ぎ、寝るのがもったいないかのように友達と語り合います。

この緑陰禅は坐禅や自然を通していろいろなお話を学んで少しでも子供たちの正しい成長の手助けをした

いと考え始まったと思えます。確かに子供たちには普段経験できないことを経験することで、成長、そして夏の良い思い出作りになるでしょう。しかし我々青年僧侶も子供たちの元気な笑顔、純粹さに触れることで、肉体的な疲労以上の精神的癒しを与えられているように感じました。

安善寺の檀信徒の皆様も是非、来年以降お子さん、お孫さんをご参加いただけましたら幸いです。



映画の仕事は楽しい仕事です

十日町シネマパラダイス館長 岡元眞弓

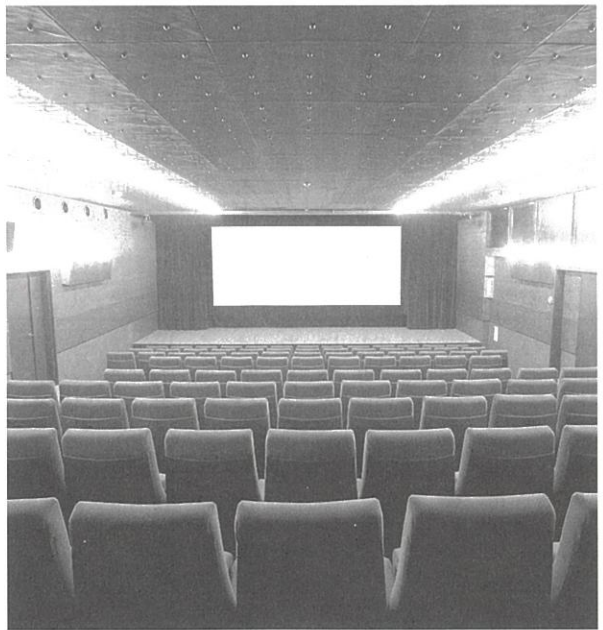
五年前の中越地震でたった一つの映画館が消えた。地震によって楽しみを奪われた人たちに元気になってほしい一心で、三年後小さいがキラッと輝く映画館を立ち上げた。場所は中心商店街から少し外れているが、パ

チンコ屋を改修した。座席数は車椅子スペースを入れて百二十六席、1スクリーンだが、音響とフランス製の座席など、映画を観るのに日本最高峰の環境である。

映画好きの長男と彼の友人を半年間渋谷の有名映画館に修行させ、二〇〇七年十月にオープンした。最初は新しい物ずきな市民が多く訪れたが、少し経つと波が引くような状態となり経営は楽ではない。その後着実にシネパラファンは増えているが、肝心の市内のお客様が少ないことが残念である。

一番のヒット作は「靖国」で長い行列まで出来た。その他の多くの映画監督をお呼びしての舞台挨拶など、常に話題を発信していくことが動員に繋がっている。

今まで訪れたゲストは、「殞の森」河瀬直美監督、「実録・連合赤軍あさま山荘への道程」の若松孝二監督、「花はどこへいった」の坂田雅子監督、「闇の子供たち」の阪本順治監督、「水になった村」の大西野暢夫監督、「チョコラー」の小林茂監督、「精神」の想田和弘監督、「モノクロームの少女」の五藤利弘監督などで、劇場を盛り



上げてくださった。

全校生徒による「映画鑑賞事業」も小中三ヶ校が導入した。映画は、子供の豊かな感受性を耕す優れた総合芸術である。観終わった後劇場から出てくる子供たちの感激に満ちた表情を見るのが何より楽しみだ。また、後で子供たちからももう感想の作文に、感激して涙することもある。私の貴重な宝物である。

今年の夏の「越後妻有大地の芸術祭」では、初の映像作品が出品された。商店街再

生のヒューマンドラマ「しゃ

ったあず・4」、フランスからはジャン・ミッシェル・アルペローラ監督の記録映画「小屋丸」、日大芸術学部学院生三田村龍伸監督のモダンアートフィルム「大地」など、五日間上映館として奮闘している。

ということ、オープンして一年と八ヶ月経ったが、毎日フィルムブックとイベントに追いまわられている。印刷媒体の締め切りと、情報月刊誌の締め切りで、情報袋が痛むこともある。

小さくてまだ実績のない映画館は優先されず、他館の空きを待たなければならぬのだ。

しかし、最大の楽しみは誰より先に好きな映画を堪能できることだ。試写も含めると年間四〇〇〜五〇〇本くらいは観るのだが、映画好きな私にとっては楽しい仕事である。

最後にとっておきのことは、来館されるゲスト達との交流だ。杯を傾けながら映画談義に時間を忘れる、など、それは映画館館長冥利に尽きる時だ。



岡元眞弓氏プロフィール

十日町市生まれ。好きな事は、映画鑑賞、合唱、人と会うこと、猫たちとの同居。現在株式会社きものブレイク副社長。十日町シネマパラダイス館長に就任。四年前のKAKA笑の会「シンポジウム」にパネラーとしても参加。

お釈迦様の声に 聞き入る虫達

株式会社イトラスト 特別顧問
工学博士 酒井與喜夫

お盆も過ぎると何となく秋の気配が漂う。八月二十四日頃は二十四節氣の一つ「処暑」ですが、まだまだ残暑は続きそう。この頃になると自然界の生きものは冬支度に入ります。特にカマキリは休眠期の無い卵のため産卵するタイミングは重要です。いつでも母なる大地からゴーサインが出てもいいように、母の声が良く聞こえる高さで待ちます。母の声を聞き漏らしたら子孫は残せないのです。早すぎると暖かい晩秋の年は中途で卵が孵化し、幼虫の餌もなく寒さで死



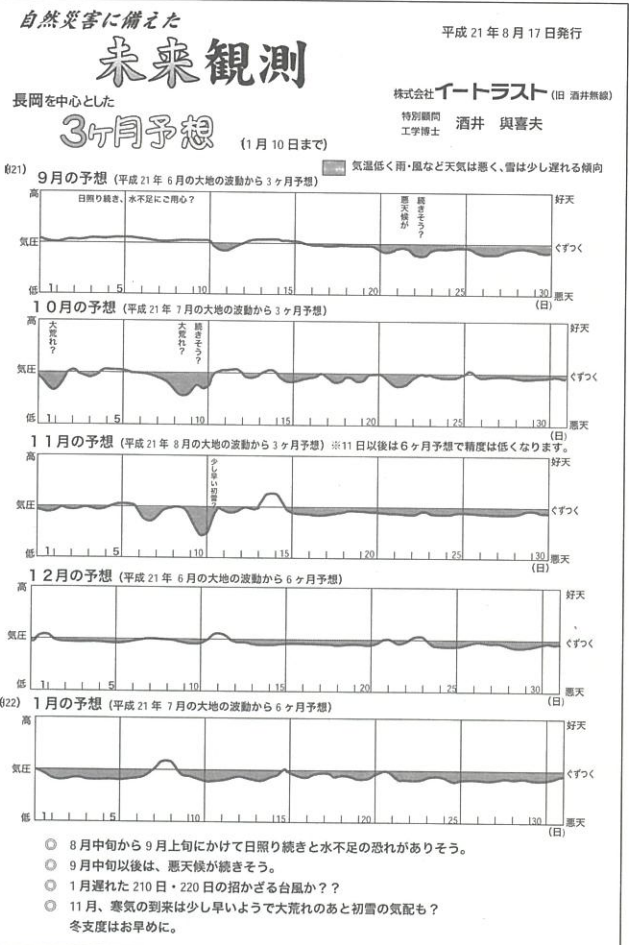
滅。遅ければ急な寒さで親自身が死ぬ危険がある。少し早い年で八月下旬、例年で九月初旬、母なる大地から「もう産卵してもいいよ」と声がします。この声は自然界の生きものの達にしか聞こえない極めて微かなものです。

いよいよ今年の初産卵です。不思議です、初産卵の日から九十一日目辺りに寒波が流れ込み初雪、本県の初雪は例年十一月二十七日頃となります。また、母なる大地はカマキリが産卵に要する四〜五時間は雨、風もフェーン現象も無く、穏やかな時間帯を六時間前に教えてくれます。生乾きの卵裏が雨に濡れると卵裏が溶ける重大な欠陥を知ってか雨を嫌います。また、「暑さ寒さも彼岸まで」の諺があるように、秋彼岸も過ぎた九月二十八日頃になると、母なる大地は一際声を大きく冬本番が近いことを告げます。毒刺に触れると非常に痛く嫌われものの刺蛾(イラガ)は母の声を聞くとき、いそいそと毛虫から蛹

に変身、繭に籠ります。すると九十一日目辺りの十二月二十五日頃のクリスマス寒波で根雪、冬本番となります。ここでも繭の中で冬眠していても母なる大地が春を告げる声が確実に伝わる高さを選んでいます。母なる声、お釈迦様の声は人の聴力では聞こえません。人間も遙か昔の原始生活をしていた頃は聞こえていたのかも知れません。文明を手にして大切なものを手放したようです。人間の聴力を十

万倍ほどに高めると虫達にも負けません。私の苦心作「地獄耳号」で母なる声、お釈迦様の声を聞くことができます。母なる声は四六時中、片時も休むことなく地球上総ての生きものに六時間前、九十一日と十三時間半前に天気を予告していたようです。私は近年、世界的に多発する自然災害から身を守るため退化した聴力を補う「地獄耳号」で昆虫や動物達の護身方法に迫りつつあります。

酒井與喜夫氏プロフィール
昭和十年新潟県長岡市(旧三島町)生まれ。株式会社イトラスト 特別顧問。工学博士。学位論文「カマキリの卵裏高さと最大積雪との関係に関する実証的研究」。平成九年日経サイエンス(アメリカサイエンス日本版)創刊二十五周年記念論文賞優秀賞受賞。
著書「カマキリが高い所に産卵すると大雪」(日経サイエンス)、「カマキリは大雪を知っていた」(農文協)、他。



《無碍智俳句の会》

何ものにもとらわれない無碍智の心で… 会田ひとし

方丈様の生活に「間」を持ち、文化に心を寄せ、お寺に親しみを持たせたいと云うお気持ちから安善寺俳句の会は平成二年九月に発足いたしました。来年は二十周年になります。

御指導をお願いしたのは結社「若葉」の同人目黒英美先生です。平成四年四月、方丈様が『無碍智俳句の会』と命名くださいました。『無碍智』とは何ものにもとらわれない、という深い仏の智慧だそうでございます。

平成四年四月、目黒先生が体を壊され退会されましたとき、この何ものにもとらわれない無碍智の心で無事乗り越え、若葉の同人となられた五十嵐美代子さんを句歴六十一年の会田ひとしがお手伝いするかたちで方丈様、奥様、会員皆様の同意を得て現在に至っております。

句会は月一度、年に一度は

親睦旅行を行っております。

句集は五年に一度手作りのオリジナルの物を発行しております。第一集に方丈様はお子様のお修行の門出をうたっておられました。二集は二十一世紀の出發、三集では中越地方を襲った地震の克服、そして来年発行される四集には、若方丈様のお帰りと結婚の楽しい句が載ること

でございます。

今回、『無碍智俳句の会』を取り上げてくださいました安善寺季刊誌編集の方々に感謝申し上げます。ここに私たちの句をご紹介します。

人の一生は短い、活字は何十年、時として何百年も残ります…。ありがとうございます。



掃除する御堂一杯残暑なり
放下着天下泰平午睡なり
風ありて強弱ありし稲穂波

近藤悠朋

修行終へ満面の笑み春兆し
新雪に蛇行の轍続きをり
何処までも車窓を追ひて鱗雲

近藤マリ子

我が顔の皺もいとほし初鏡
三陸の一輛電車夏来る
酌み交わす毎に着崩る宿ゆかた

阿部冬子

鍋かけず一人夕餉の冷奴
吹く風にホト息つく残暑かな
春の空憂きこと消えし飛行雲

小林竹子

道元の教へ賜る麦の秋
初蟬や窓開け放つ十二畳
返り花八十路の母の笑みやさし

鷺見豊子



春うらら一往復の電車待つ
燈登る奥の正法寺若葉時
入道雲ビル一棟を抱へをり

渡辺範子

湯上りを風に吹かれて星月夜
老二人日々穏やかに黄ばら咲く
野を駆けし遠き思ひ出吾亦紅

太刀川八百子

閑静な路地はばかり猫の恋
男衆のこの路地愛し神興揉む
住み慣れし路地裏葉し大根干

五十嵐美代子



秋暗れて老師の遺徳堂に満つ
永遠の愛嘘を包んで蓮が咲く
地震は地震丸々たる冬キャベツ

会田ひとし



第十三回 KAKA笑の会

異文化コンサート

本年は結婚式のため、春のイベントを休ませて抱きましたが、秋は別記の日程で、川口市(埼玉県)を中心に『田中ケイ子と仲間たち』で活躍しておられ、安善寺の壇信徒でもある田中ケイ子さんをお願いして、日本舞踊・イン

ド舞踊・ソプラノ・バリトンの共演をしていただく事になりました。しつとりした日本舞踊と艶美な振り付け、芸術的衣装でしなやかに、ときにはリズムカルな感じのインド舞踊、そんな中でのソプラノ・バリトンの共演。



秋の夕べを安善寺の本堂でお楽しみください。

■日時 十月二十日(金) 午後六時三十分

■場所 安善寺本堂

■会費 二千五百円



田中ケイ子氏プロフィール

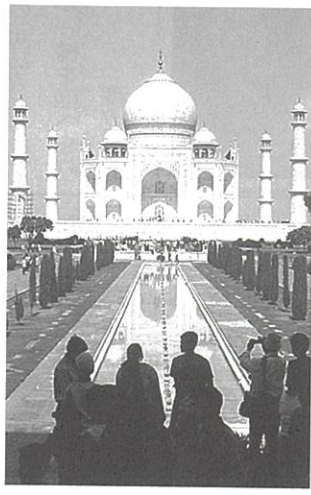
日本舞踊松島流 松島玉豊 師歴四十年。歌舞伎座・国立劇場・三越劇場・浅草公会堂・イイノホール・日本橋劇場その他数々出演。京鹿子娘道成寺・勢獅子・二人三番・三社祭・乗合船・まかしよ・禿菊・玉屋、その他数々踊る。

この数年は田中ケイ子本名で活動。一昨年は地元蕨市民会館で踊り好房豊遊会田中ケイ子の会として日本舞踊の会を開催。その折インド舞踊のマチコ・クラシユミ、ソプラノの今泉えりこに賛助出演していただき、その後数回「異文化コンサート」開催。今年6月にはバリトンの旭潔に参加していただき開催。



お釈迦様の聖地を訪ねて

インド仏跡巡礼の旅



- 日程 平成22年2月21日～27日
- 旅費 245,000円
旅費の中に成田空港税、インドビザ代、インド空港税が含まれています。
※燃料チャージが必要になることもあります。
- 定員 20名
- 申込金 30,000円(旅費充当)
- 締切 平成21年12月末日
- お申込・お問い合わせ
安善寺
長岡市神田町1-4-10 tel.0258-32-2811

お別れ

- (平成二十一年七月～八月末)
- 中野咲子様 七月七日寂
- 長岡市撰田屋
- 那須憲治様 七月廿四日寂
- 東京都板橋区
- 仲村菊栄様 八月五日寂
- 長岡市美園町
- 仲澤 規様 八月八日寂
- 長岡市下山
- 平澤三郎様 八月十日寂
- 長岡市川崎町
- 中澤千枝様 八月十一日寂
- 東京都杉並区

ご冥福をお祈りいたします。

旬歌 愁灯

[二十三話]

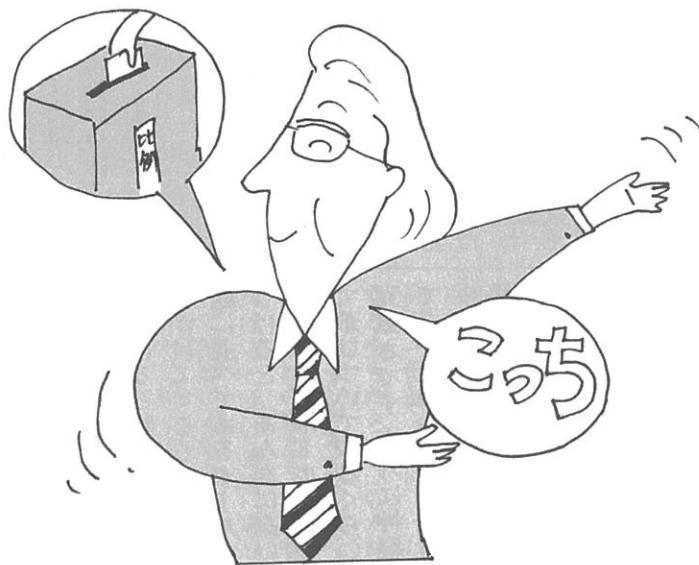
忌野清志郎の「君が代」

加瀬由紀子

政権交代を掲げた民主党が圧勝し、八月と共に衆議院選挙が終わった。このたびの選挙で思いを新たにすることがある。自らの意思で投票をした女性たちが多かった、ということである。「主人に頼まれたから」「取引先から言われて」：数年前、某候補者の選挙運動を手伝ったとき女性たちの多くから耳にした。しかし、今回は違った。「年金しかりもらいたい」「息子の仕事がない」「孫の保育園や進学のためにマニフェスト見てよく考える」「テレビタックルやサンデープロジェクト、必ず見る」等々。

さらに私が感心したある友人の弁。「〇×党でない日本はだめになる。それでいいのですか、と言った候補者がいたけど、実に高圧的で失礼よね。まるで〇×大学に入れないとあんなの息子はじめになる、と聞けるわ。判断するのは私自身なんだから！」また「社長から会社でA候補があいさつに来るから集まるようにと言われ、一応握手したけど、投票は自分の決めた別の人に入れたもんね」という女性もいた。もはや援護会とか組織、利権云々の票頼みではなくてきてい。政治について、政党の掲げる本質や将来性について真剣に考え、投票した女性たちが増えたのである。

私も新聞の自民党の広告を見て首をかしげた。政策で闘う、と言った麻生さんだが、他党を攻撃する内容が大部分で、その手法が既に野党なのだ。公明党の太田代表に至っては、焦りとも取れる野党中傷を連呼している姿が哀しかった。



国民は未曾有の不況のもと、冷静に比較、投票したのが今回の結果ではないだろうか。衆愚化、ではなく、個人の成長、成熟と解釈すべきで、オバマ大統領当選時のチェンジ！のうねりも影響したのかもしれない。

そして国民はこれからの展開をも冷静にチェックしてゆくことだろう。それにしても憲法九条はたまた自衛隊の扱いはどうなるのだろうか。折も折り、自衛隊高田駐屯地見学に誘われた。自衛隊とは何ぞや、

の答えがあるかもしれない、と野次馬根性で参加した。正確には、「陸上自衛隊東部方面隊第十二旅団・高田第二普通科連隊」という長つたらしい呼称で、長岡市を中心とする南部新潟隊区の防衛・警備、災害派遣を任務とする。

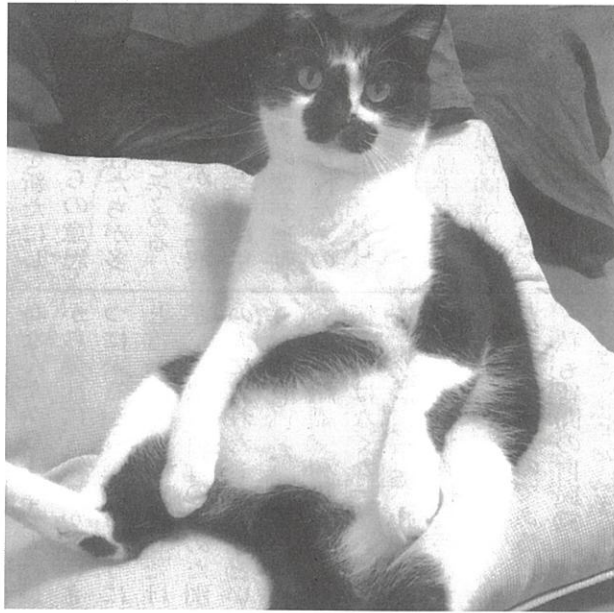
監視隊員の挙手敬礼を受け、マイクロバスは駐屯地の門をくぐる。居心地の悪さに緊張しながら、会議室でパワポイントを観る。中越地震、中越沖地震等での活躍の記録や、イラクでの国際平和活動などの映像の後、「自衛隊員を募集しているので、ぜひお声がけを。スポーツは大きいチャレンジできますし、規律正しく思いやりある青年を養成しますよ、他方、即応予備自衛官という制度もあつて年間九千人の退職者が出ますので、助成もある企業での再雇用を御願いします」といった説明を受ける。

世の中、求職難なのに人材不足なのはよっぽど自衛隊って嫌われているんですね、と言うと、だからこそ自衛隊をもっとご理解お願い

します、と哀願された。(この時点で既にウルサイ人物とチェックされていたようだ) マイクロバスで関山訓練場に移動。迷彩色のヘルメット、防弾チョッキ、双眼鏡、耳栓が貸与される。「いよいよ戦車に乗るんですね！」高田には戦車はない、と言われてがっかりする。耳栓は狙撃訓練場で装着。七百メートル先の標的を打ち抜く様を見学した。続いてすさまじい発射音の八十四ミリ無反動砲射撃訓練場に到着。有効射程は戦車で七百メートル、人員なら千メートル、と説明を聞く。弾はいくら？と質問すると、四万円とか。戦闘機に向けて必ず命中する弾は四千万円、とうとうしそうな係官の答え。「それってミサイルでしょ？ 我々の税金そんな使い方してらんだ！ ときに田母神元空幕長発言許せますか？」と尋ねると、同行の友人から袖を引っ張られ後列へ連れ戻された。五月に亡くなった忌野清志郎の「アナーキーな君が代」熱唱が、私の頭を駆け巡っていた。

ボブの独り言

今年もいろいろあった夏が 過ぎようとしています



家での生活を満喫し、高校のサッカー部のOB会にも卒業以来初めて参加し、就職して以来一番長い夏休みを家で過ごして大阪に帰って来ました。

いつもの年ですと普段いない子供達が帰ってくるとお母さんは嬉しいのですが、普段のお寺の用に加え、食事の支度に洗濯にと大忙しで、皆が帰ったあとは疲れてグッタリしていましたが、今年には心強い人が加わったので傍らで見ているホッとする思いでした。家族が増えるって本当に良いものですね！

今年日照時間が短い夏だったのに加え、湿度が以上に高く、私たちにとっても過ごしくい日々でした。でも、あつという間に庭には秋の花々が咲き、夜は虫の音が賑やかになり、秋の気配が色濃くなってきました。今年のお盆は二番目のお

兄ちゃんが「久美子さんとは結婚式に会っただけで、まだ酌み交わしたことがないから」と言っ、大阪から帰って来ました。お兄ちゃんのお嫁さんがどんな人か楽しみに帰省しましたが、今までのお寺の雰囲気と何等変わる事がなかったので、何日か実

石のほんの初期でした。今

は治療食を食べさせてもらっているのになんともありませんが、見逃すと命を落とすこともあるそうです。本当に感謝です！

この夏は家族はみ〜んなとても健康でしたが、意外にペット達が体調を崩して病院通いが頻繁でした。

犬のノンちゃんも見た目は本当に元気すぎて、私を見つけると物凄い勢いで追っかけてくるし、居間の鴨居に並べてあるボールを見つけると、あんなに高いところなのにボールが欲しくて飛びついて取るくらいの元気さです。意外に神経質でなかなかお腹の調子が治らず大変でしたが、元気に訓練に行きましたし、ペコの納骨もお盆前にすませ、一安心です。 ニヤーン

編集 雑感

過日の編集委員 会でのこと。寄稿はまったく無く、委員がページづつ受持ちだ、などと怖い話が持ち上がったのですが「窮すれば通ず」です。お願いしたら皆様気持ちよく原稿を送っていただき無事に今号も発行することが出来ました。ご協力を感じ、次回からは皆様、どんなことでもけっこうです、旅行先でのこと、日常感じていること、嬉しかったことなど、気がついた時、皆に聴いてもらいたい時、ぜひご寄稿くださいたくお願いいたします。編集委員会では構想がまとまればすぐ慰労会です。今回はいつもと少し趣向を変えて、中庭でバーベキューを用意していただきました。ご任職が午後四時頃より

お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事やしきご教えたり疑問（編集部がお答えします）など。
- 嬉しい・楽しい嬉しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。

周囲に蚊取線香を何か所にもつけ、ろうそくも回りに灯して、縁側と石庭の中にパッチリと新家族四人でご準備いただいたご様子です。ピールの栓も抜かれて美味しい焼肉、とうもろこしに椎茸などなど。蚊は全く姿を見せませんでしたが、ボブが「何してるの？ 私も仲間に入れてくれ」と庭に降りて一緒に楽しく今年初めてのバーベキューに参加させていたできました。

景気も回復せずに選挙真つただ中です。季刊誌が届く頃には判断がくだされていくはずですが、芸能人の麻薬汚染など毎日ニュースなどで報道されており。一瞬の気の緩み、好奇心など原因は色々あると思いますが、ご家族、仲間同士で暖かく子供達を見守って、このような犯罪が起らないように行きたいものです。

こんな話で宴も盛り上がり、家に帰って中庭に水をやるうとしたらスイッチョンの鳴き声。秋が早いのかと少し寂しい思いで布団の中へ。おやすみなさい。 高橋利春